
新ぶよぶよSTORY

六区ばらくん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新ふよぶよSTORY

【ZINE】

Z9973M

【作者名】

六区ばらへん

【あらすじ】

ふよぶよの連載ものです。

ある一人の中学生・・・彼が魔導世界に飛び込んでしまうのです！

第1話 謎の扉（前書き）

現実世界にあるひとりの中学生がいました。
彼はこよなくぷよぶよを愛し、熱中していました。
夏休みのある日、そんな彼は謎のドアを発見。
すると・・・

第1話 謎の扉

それは八月某日のことだった。全く普通の中学生だった六区穂津は、その日もゲームをしていて一睡を過ごしていった。

彼は、「大」がつくほどのが好きではなったが、彼にははまつているゲームがあつた。それが「ふよふよ」である。落ちてくる「ふよ」を積んで消していくものだ。穂津は、もとから「ふよふよ」や「テトリス」といった落ち物パズルが好きであり、以前は「テトリス」にはまっていたが、祖母に「ふよふよ」を借りてからは、すっかり夢中になってしまったのである。それからといつもの、彼は「ふよふよ」を毎日やっていた。といつよつは、ふよふよしかやらなこのである。

「おつと、もう寝る時間か。」

十一時半になった。穂津はふよふよをやめて、寝る用意を始めた。五分経つて、彼は床についた。

フルルルル・・・ フルルルル・・・

翌朝、穂津の目覚ましは定刻の八時半に鳴つた。穂津はいつものよう起きる。すると・・・。

「まつ、まさか。」

うそではないと思った。けれど信じられなかつた。向こうに謎の扉があるのだ。誰かがつけたものではと思つた。

「まつ、入つてみるか。」

夏休みなので、まだみんな寝ている。穂津は扉の中に入つてみるとした。

扉を開けた。何もない。あたりは真つ白だ。しかしこれは壁ではな

い。何なんだと思いながら、穂津はおそるおそる歩いていった。すると、何かが出てきた。扉だ。いつたいここは家とどこを結んでいいのだろうか。穂津の頭の中はそんな疑問でいっぱいだった。

扉を開けてみた。「一体、ここは……。」

第2話 それは魔導への扉だった！（前書き）

前回のあらすじ

穂津は、ぷよぷよをこよなく愛していました。
ある休みの日、彼は謎のドアを見つけました。
そして、そこに入つていったのです。

第2話 それは魔導への扉だった！

なんと、そこは、他人の家の子供部屋だった。穂津はまるで夢の中なんだろうかと疑い始めた。中学生っぽい女の子の声がした。

「誰か、人がいるよー。」

穂津はやばいと思つて、扉の中に戻りつとした。しかし、その少女は、穂津をドロボー扱いしなかつた。

「いらっしゃいて。」

「えっ。」

穂津は顔を少女のほうに向けた。黄色い髪の毛に赤い帽子。ハートの服にハートのスカート姿だった。

「まあ、いらっしゃって。」

少女は穂津を居間に案内した。次に、少女は母親をよんだ。少女の母はすぐにやつてきた。お茶を入れてくれた。

「ようこそ、いらっしゃい。」

どうやら、母もドロボー扱いしていいようだ。

「どこからきたの？』

「自分の部屋。」

「名前は何て言つの？」

「六区穂津です。」

「あら、そうなの。私はロバート・コンドリア。いらっしゃが娘のアミティ。アミティ、自己紹介しなさい。」

「私、アミティっていうの。よろしく。」

アミティ……どこかで聞いたことがある。その時、穂津はふと思つた。「ふよふよ」だ。ふよふよのキャラだ。ところどころ……。

「Jリヒで、ふよぶよの世界ですか？」

「うん。正式には魔導っていうんだ。」

「やっぱりか・・・。」

「何が？」

穂津は黙つた。アミティはとある質問を出す。

「せつじえぱ、Jリヒでは名前はみんなカタカナで書くんだ。だから、君、ホジ君でいい？」

「僕クラスのみんなからそづ呼ばれています。だから、その名前でいいです。」

「そんなカタくなんなくていいよ。」

「じゃあ、こんな感じでいいの？」

「そのしゃべり方でいいよ。」

穂津はほつとした。

「セツジえぱ、Jリヒビハ。」

「Jリヒはプリンプタウンよ。キノコ王国の首都のキノコタウンの西隣りにあるの。Jリヒの王女はピーチ姫。」

「有名な人は？」

「マリオがいるわ。ピーチ姫の手下なんだけど、とても強いの。レースもできるわ。」

「へえ。」

「キノコ王国の南にはサラサ・ランドって国があるの。王女はティジー。サラサ・ランドの東隣はアッププラングって国があつて、ティギデ大王つて王様がいるの。」

「どうじうこと。」

アミティは地図を見せた。

「ああ、そういうことか。」

「どこから来たの？」

「日本の秋原町つて所から来た。デンサンシティの隣。」

ホヅは日本の地図を見せた。

「そんな国があるんだー。」

アミティはとても驚いたようだ。

「私が通っている学校を案内してあげる。」

「ありがとう。」

ホヅは一度現実世界（日本）に戻り、着替えを済ませると、またアミティの家に戻ってきた。

「さあ、いくよー。」

「うん。」

二人は外に出た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9973m/>

新ぶよぶよSTORY

2010年10月9日22時39分発行